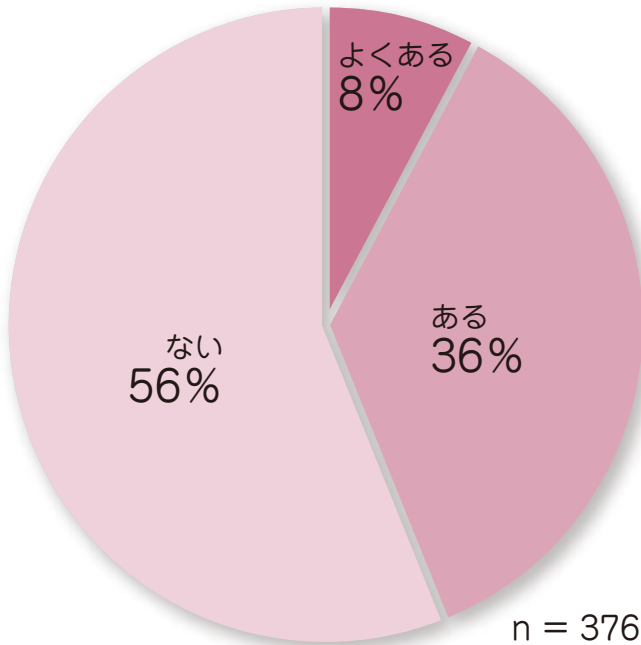


Q. 通院・治療をやめたいと考えたことはありますか？



通院・治療をやめたいと考えたことのある患者さんは44%おり、実際に中断した経験のある方は全体の2割いらっしゃいました。また、通院をやめるに至ってはいないものの、4人に1人は通院を休みがちになった経験があるとのこと。実際に中断をした方の理由としては、「医療費の負担」「時間をとるのが難しい」「主治医・医療スタッフとの相性」が上位でした。中断については、そのリスクを9割近くが「知っている」とのことでしたが、主治医や医療スタッフからの情報提供は、「とくに受けていない」が最も多く35%、「初診時に受けた」の32%と続きました。

Q. 通院をやめたのは、どのような理由ですか？（複数回答可 n=77）

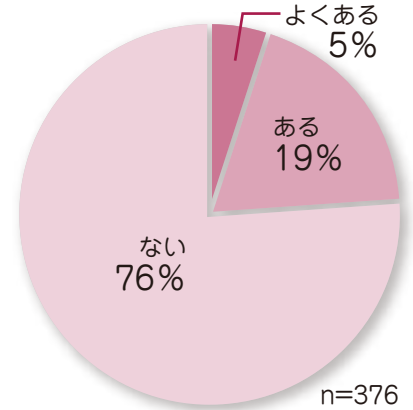
医療費の負担	49%
時間をとるのが難しい、仕事を休めない	40%
主治医や医療スタッフとの相性	36%
血糖コントロールがうまくいかない	25%
治療をやめても変わらないと思った	22%
治療方針など納得いく説明がない	19%
治療が嫌になった	19%

さらに、中断経験のある方に、その回数について伺うと、53%は1回でしたが、2回が25%、3回が10%、5回以上が8%と、複数回の方も多くみられました。中断期間は、数カ月～10年以上まで様々。通院を再開した方の理由では、約4割が「合併症の発症・進行が怖くて」、検診で受診を勧められた」が3割でした。

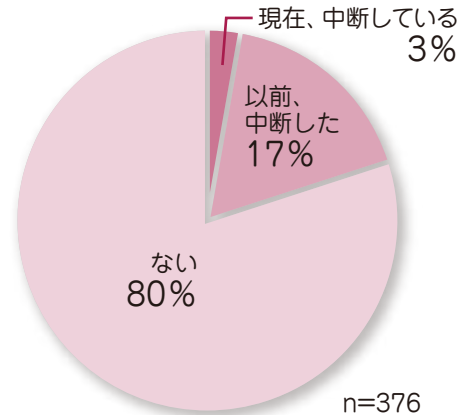
自由記述では、「努力しても検査結果に反映されず、その上、怒られたりすると治療が嫌になる」「1型は中断＝死。不満があってもやめられないストレスは非常に大きい」「医療費が支払えなくなったら通院をやめるしかない」など多数の声が寄せられました。

予約日をキャンセルして行きづらくなった	19%
通院先が遠い、通うのが不便	13%
引っ越しを機に	13%
診察の待ち時間が長い	12%
身体が不自由になり通院が困難になった	1%
その他	9%

Q. 通院を休みがちになった経験は？



Q. 実際に、治療を中断したことは？



●コメンテーター●

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

医療機関の受診者数は、糖尿病に限らず減少傾向にあり、背景には経済的問題があるとのことは広く知られています。糖尿病の治療目標を高めるほど、薬剤費が増えたり、通院頻度が増える場合が多いのですが、それを、自ら拒否される原因が経済的問題だとすると、医療者側も、自身のスタンスを明確にしておく必要があります。安いばかりが良い医療ではないと考え、毎月採血を行い新薬を処方して先端医療を目指すクリニックと、医療費総額を押さえるため、採血を控えて安価な薬や後発品を中心に処方するクリニックとの二極化が起ってくるでしょう。通院中断を防ぐには、患者さん自身に、どちらかを選択してもらう機会が必要かもしれません。